Japan Society of Educational Information

成績分布共有システムを活用した組織的なＦＤ活動の推進についての研究

小川　勤[*1]　岩部　浩三[*2]　岡田耕一[*3]

<概要>高等教育の質保証を実現していくためには各授業で厳格な成績評価を実施していくことが欠かせない。しかし、同一科目名の授業を複数の教員が担当している場合、担当教員ごとに成績評価の付け方が異なるケースがが多い。これに対して学生たちは多くの不満を持っている。この成績格差の原因を考えていくと、当該科目の成績分布が教員間で共有されていないことが原因の一つとして考えられる。そこですべての授業の成績分布を公表し、教員であればだれでも他の教員の成績分布やGPCを閲覧することができるシステムを開発した。同システムの導入により、前後関係のある授業間でそれまでの達成状況を考慮した授業計画の策定、および達成目標の設定、同一科目名の授業間におけるレベルの調整などの活動が実施しやすくなった。また、分科会（共通教育の実施組織）ごとに、当該システムから得られたデータを参考に、成績の付け方や教育内容に関するFDや意見交換会を開催することが可能となる環境が整ったなどの教育的成果を上げることができた。。

<キーワード>成績分布の共有、厳格な成績評価、３つのポリシー、組織的なＦＤ活動

１．はじめに

厳格な成績評価を通して高等教育の質保証を実現していくためには、現実には多くの課題が存在する。例えば、同一科目名の授業を複数の教員が担当している場合、教員ごとに成績評価の付け方が異なることが多い。これに対して学生からは多くの不満が寄せられている。まして、その成績結果により次年次に進学する学科の進路が決定されるといったケースの場合には事態は深刻である。このような同一科目名にもかかわらず授業担当者により成績格差が生じる原因としては、当該科目の成績分布が教員間で共有化されていないことが原因の一つに考えられる。また、このような場合、統一シラバス、統一教材を作成し、教員間で成績の付け方について話し合えば解決することができるという意見を聞く。しかし、大学では各教員が高い専門性の下に授業を担当しているために、高校や義務教育のように簡単に成績評価について話し合う環境にはなく、さらに、統一シラバスを作成しても、教育内容や教育方法が異なるため、統一試験を実施することも現実には困難な場合が多い。そこで山口大学ではすべての授業の成績分布を公表し、教員であればだれでも他の教員の成績分布やGPCを閲覧することができるシステムを開発し、自らの授業の成績評価の付け方や到達度の設定内容の再検討のために利用している。また、教養教育の各分科会ではこのサポートシステムを利用して教員間の成績の付け方について、組織的なＦＤ活動を実施しようと考えている。今回の発表では同システムの開発構想とシステムの概要、同システムに対する教員の意見・感想、同システム導入による教育的成果と今後取り組まなければならない課題について明らかにする。

２．成績分布共有システムの構想

（１）開発経緯

現在、各大学は学士課程教育の再構築に向けて教育改善を実施しているが、このためには学士課程の目標を定め、それを確実に達成できるカリキュラムを整備する必要がある。

*1 OGAWA、Tsutomu ： 山口大学　e-mail= ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp

*2 IWABE、Kouzou: 山口大学　e-mail= iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

*3 OKADA、Kouichi: 山口大学　e-mail= kokada@yamaguchi-u.ac.jp

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information

カリキュラムの整備とは、学士課程の目標に向かって各授業が有機的な連携関係を持ち、個々の授業の目標を確実に達成して積み上げて行くという作業にほかならない。本学においては、グラデュエーションポリシーの策定、カリキュラムマップ作成を通じたシラバス到達目標の確認等を通じてこの作業を進めているが、明確な到達目標設定と厳格な成績評価は表裏一体のものであり、こういった組織的な教育改善活動を行うためには各授業の成績データを参照する必要がある。

授業の到達目標の設定をしようとする場合、担当授業に関係する授業のシラバスを見て内容と到達目標を参照するほか、成績データによってその達成状況を知り、担当授業の適切な到達目標設定を行う。このような授業間のすり合わせは最も重要なFD活動であるため、それをスムーズに実施できるような環境作りは非常に重要である。

昨今求められている厳密な成績評価を行うには、まず明確な到達目標の設定が必要とされるが、関連する授業における学生の達成状況を知らずに、的確な目標設定を行うことは簡単ではない。

山口大学では既に、webシラバスにより各授業の到達目標や実施計画の概要は自由に閲覧することが可能となっているため、教員間で情報を共有するインフラは整っているが、成績データに関しては当人が担当する授業以外の情報を共有するに至っていなかった。そこで、組織的なFD活動推進のために、各授業における成績分布のデータを教員間で共有しようとするのが本システムの開発構想である。

当初、本構想はGPC（GPAクラス平均値）の共有という形であったが、平成21年4月21日開催の平成21年度第1回教学審議会に提案したところGPCだけでなく成績分布のデータが必要であるとの意見を得た。平成21年5月19日開催の平成21年度第2回教学審議会にて原案および活用例についての説明を行い、共有するデータの具体的な内容については今後、教学委員会で検討を行いたい旨の提案を行った。委員からは、教育組織内での共有で足りるのではないか、少人数授業では学生個人が特定される、共有に際しデータの利用指針が必要、等の意見が述べられたが、協議の結果、原案の方向性については了承され、これらの意見を踏まえた上で具体的な内容については教学委員会において検討することとなった。これを受けて、平成21年5月27日開催の平成21年第2回教学委員会にて、組織的FD活動推進のため各授業の成績データを教員間で共有するための具体的な内容については、今後大学教育センターにおいて原案を作成し、教学委員会において検討を行う旨の報告を行った。平成22年9月27日開催の平成22年第5回教学委員会において試作版を教学委員に公開し、試作版の検討とデータ取り扱いの協議を行った。その後「成績分布共有システムにおけるデータ取り扱い等に関する申し合わせ」が平成22年10月27日開催の平成22年度第6回教学委員会において承認され、最終的には平成22年12月22日開催の平成22年度第8回教学委員会において確認された。分科会に属する授業の一覧機等の機能を追加した後、平成23年2月に教職員に対して学内公開を開始している。(図１)。

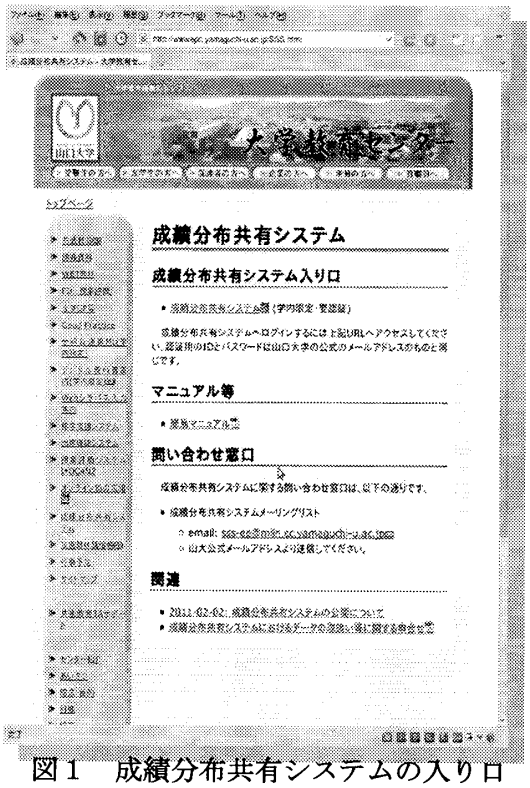


図１　成績分布共有システムの入り口

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information

（2）システムの概要

本システムでは、成績分布を教員間で共有することで授業間の成績格差を発見し授業改善につなげる目的で構築されている。主に成績分布のヒストグラム(評価毎(秀・優・良・可・不可・欠席)、得点区間毎(10点刻み))とGPCの閲覧機能を提供している。

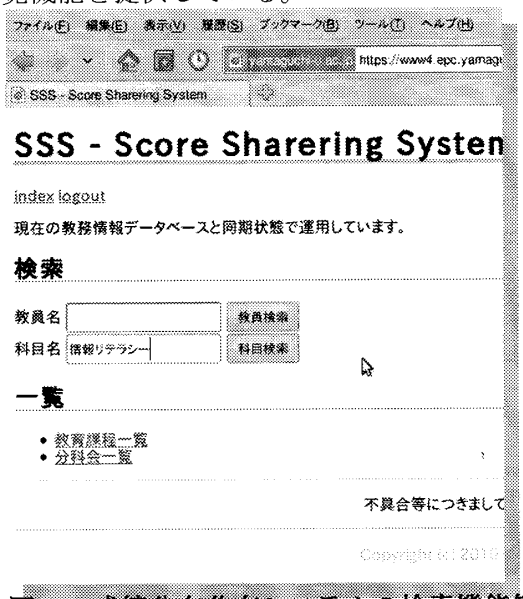


図２　成績分布共有システムの検索機能等

各授業は、教員名、科目名で検索できる他、分科一覧や教育課程一覧から、それぞれに属する科目一覧をたどることもできる（図２）。一覧表については閲覧時に列毎にソート可能な機能も提供している。

成績分布及びGPCは単一授業および同一科目名全体に関しての値および分布を確認することができる（図３）。

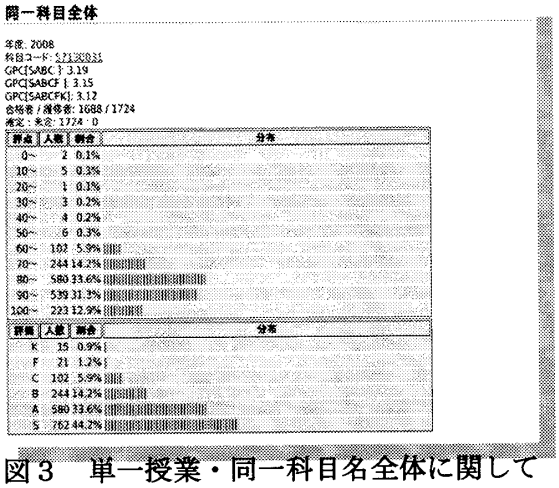


図３　単一授業・同一科目名全体に関しての成績分布及びGPCの表示

さらに、単一の授業と同一科目全体のGPC及び成績分布の比較はプラスマイナス表示することで同一科目全体に対してのその授業の成績が高いか低いが分かるようにした（図４）。

閲覧許可の範囲としては、学内限定で教職員のみに対して閲覧の許可を出している。

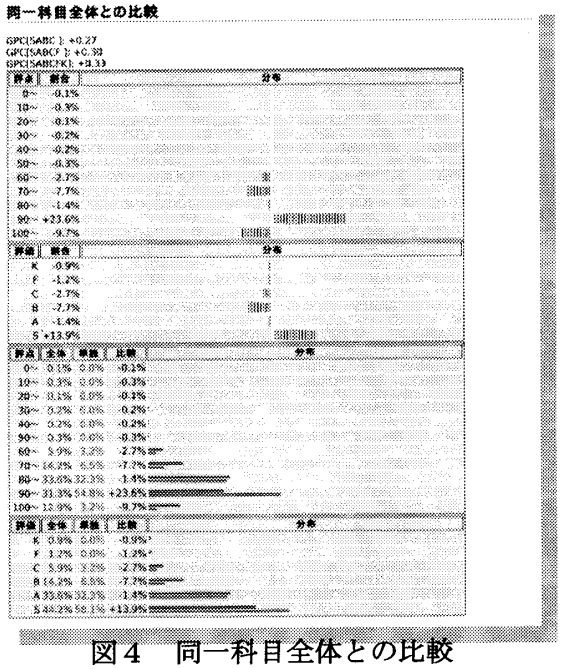


図４　同一科目全体との比較

３．教育的成果と課題

（1）教育的成果

本システムは、公開したばかりということもあり、教育的成果が実際に目に見える形で表れるのはまだ先になると思われる。とりあえず現在までの成果としては、教員間でも共有されていなかった、各授業の成績分布およびGPCを教員相互に閲覧可能となった。これにより以下のような教育的な成果が現実に明らかになってきている。

①前後関係のある授業間でそれまでの達成状況を考慮した授業計画の策定、および達成目標の設定、同一科目名の授業間におけるレベルの調整などの活動が行われた。

②同様な科目（科目名の同じ科目や統一シラバスの下で実施している科目など）を担当している他の教員と、成績の付け方について比較・検討することが可能となり、自分の達成目標の設定や、同一科目名の授業間におけるレベルの調整などがしやすくなっ

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information

た。

③共通科目などについては、分科会（共通教育の実施組織）ごとに、当該システムから得られたデータを参考に、成績の付け方や教育内容に関するFDや意見交換会を開催することが可能となった。

④学生からは教員の成績評価方法に対して不満が少なからずあった。このような不満は、成績データが教員間で共有化されるとともに、FDなどを通じて教員間で意見交換が活発化されることによって、多少ともレベルの調整がされていく可能性がある。

また、このシステムを見た教員の意見および感想は以下のとおりである。

①他の先生の成績の付け方がよくわかるので、自分が成績を付けるときに参考になる。

②自分の成績評価が他の先生より厳しいことがこのシステムを見てよくわかった。

③統計的な資料に関しては基本的に学生に開示すべきだ。

④公開すると学生が殺到して困るという授業に関しては，授業の成績評価基準を厳格に適用することで対処できるのではないかと考える。

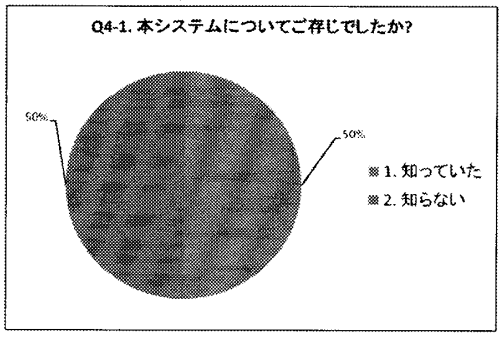
⑤個人差があってとても興味深い。それぞれ思惑があってのことなのでしょう。これを何らかの評価に使うべきとはまったく思いませんが、こういう情報を共有できることはよいと思います。

⑥比較できるのは有意義だと思うが、各教科の中で学生に不公平がでなければ問題ないのではなかろうか。普通は、学科ごとに、同一の教員が講義を行っているでしょうから。

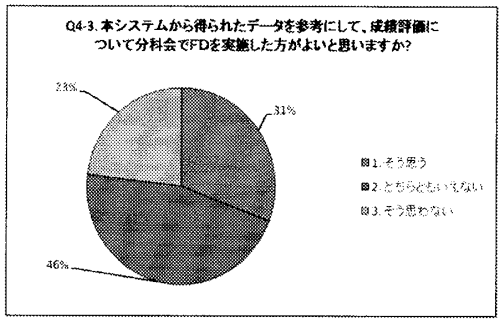
（2）教育的成果

共通教育の情報処理分科会のワーキング・チームが中心となって、教育改善の一環として、成績分布共有システムについて、以下のような「アンケート調査」を2011年5月に実施し、教員の当該システムに対する認識や活用方法について質問した。その結果の一部を公表する。

・システムの存在について



・本システムから得られたデータを参考にして、成績評価について分科会でＦＤを実施した方がよいと思いますか?



（3）課題

成績分布共有システム導入に関する課題は以下のとおりである。

・現在は教職員に限定しているが、これは(単位の出易い授業に学生が殺到する等)受講科目の選択等における影響が心配されるため、学生には開示しないためである。他大学では既にGPCを一般公開する取り組みを行っているところもあるため、今後公開の範囲を拡大するかどうかという点について検討が必要である。

・学生からのアンケート結果から、同種の科目間における試験難易度の差などについて学生から具体的な科目名を挙げて指摘されている。成績評価においても実際にそのような差があるのかについて、授業実施組織（分科会）で確認し、次年度のＦＤ活動の課題として取り上げる必要がある。

・GPCは、一般化しているが、一口にGPCと言っても、異なる資料間でGPCの値を比較する際には、その計算方法について注意し、教員に共通理解を得ておく必要がある。

NII-Electronic Library Service